

平成 30 年度 都立高入試 配点について

新教育研究協会

都立高入試の予想得点の算出にあたりまして、弊社が予想いたしました配点をお知らせいたします。

国語 —記述問題の配点について—

④〔問5〕200字課題作文

●配点…10点

●採点方法

- ・記述問題が200字作文1問だけであるため、採点は複数の先生が行い、互いにチェックする形になると思われます。「○○について××が書かれている。」のような具体的な基準を各校が定め、段階的に点数を設定していると想定されます。

〈内容〉については下記のような配点がされていると思われます。

- ・自分の意見、主張があるか…4点
- ・筆者の主張を踏まえているか…3点
- ・具体的な体験や見聞があるか…3点

これらの項目について不備がある場合は、各配点の範囲で減点されると思われます。ただし、全体として論旨に一貫性のないものは2点減点、本文の抜き出しや要約になっているものは不可(0点)となると思われます。

- ・さらに、下記のような形式面で、減点されると思われます。

〈表記〉・句読点の誤り、誤字、脱字、衍字(=余計な字)などがあるもの…1~2点減点

・最後の一文が途中で終わっているもの…1点減点

・101字以上150字以内のもの…2点減点 ・100字以内または201字以上のもの…不可(0点)

〈言葉の特徴やきまり〉

常体と敬体の不統一／書き言葉としてふさわしくない／語句の意味や用法・文法上の誤りがある 等
…1~2点減点

数学 —完全記述問題の配点について—

●配点…各7点

●採点方法

- ・模範例についての予想配点です。各学校によって違いはありますが、部分点があると思われます。

②〔問2〕

〔証明〕

円柱の側面は、縦の長さが h cm、横の長さが底面の円周の長さに等しい長方形だから、

$$\text{側面積は } 2\pi r \times h = 2\pi rh$$

底面積は πr^2 となる。

したがって、表面積 Q は、

$$Q = 2\pi rh + 2\pi r^2 \dots\dots\dots (1)$$

$\ell = 2\pi r$ だから、

$$\begin{aligned} \ell(h+r) &= 2\pi r(h+r) \\ &= 2\pi rh + 2\pi r^2 \dots\dots\dots (2) \end{aligned}$$

(1), (2)より、 $Q = \ell(h+r)$

- ・立体の表面積 Q が r 、 h を用いて表されていれば2点と思われます。
- ・立体の底面の円周 ℓ が r 、 h を用いて表されていれば2点と思われます。
- ・結論が論理的に導けていれば3点と思われます。
- ・誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になると思われます。

④〔問2〕①

〔証明〕

$\triangle ABP$ と $\triangle ARP$ において、

仮定から、 $BP = RP \dots\dots\dots (1)$ —— 2点

半円の弧に対する円周角だから、

$$\angle APB = 90^\circ \dots\dots\dots (2)$$

(2)より、 $AP \perp BR$ だから、

$$\angle APB = \angle APR \dots\dots\dots (3)$$
 —— 2点

共通な辺だから、

$$AP = AP \dots\dots\dots (4)$$
 —— 2点

(1), (3), (4)より、

2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、 —— 1点

$\triangle ABP \cong \triangle ARP$

- ・(1), (3), (4)のうち、1つが書けていれば2点、2つが書けていれば4点、3つが書けていれば6点になると思われます。
- ・(1), (3), (4)は順不同でもよいと思われます。
- ・「2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい」は、「2辺挟角相当」などでもよいと思われます。
- ・その他、別解も考えられます。
- ・誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になると思われます。

英語 ー課題英作文の配点についてー

●配点…12点

●採点方法

- ・各学校によって違いはありますが、文法面とともに内容面を重視して採点すると思われます。
- ・昨年に続き、メール文の空所に記入すべきテーマを読み取ったあとで、英文を記入してメール文を完成させる形式が出題されました。「勉強するのを楽しんでいること」を、I'm enjoying studying～等で表現したあと、楽しいと感じる理由やその勉強に関連する内容等を示す文章を続ける解答が中心となると思われます。また、時制面では現在形の表現が中心になるかと思われます。
- ・学校によっては、つづり字、読点、大文字、小文字などの表記上の誤りがあれば、各文1～3点の減点があると思われます。ただし、同じ誤りを何回も繰り返したような場合は、全体で何点の減点というような配慮がなされると思われます。

社会 ー記述問題の配点についてー

●配点…各5点

●採点方法

- ・③〔問3〕Ⅱの地形図とⅢの地形図から「道路の変化」を読み取ると、Ⅱの地形図(1961年)では「曲線状の道路が多く見られた」が、Ⅲの地形図(1996年)では「直線状の道路が多く見られる」ようになったことがわかります。Ⅰの文章に、「農業経営の規模の拡大、機械化、農業経営の近代化などを図る」ために農業構造改善事業の取り組みが行われたことが示されていることから、機械を使用しやすくし農業経営の近代化などを図るために、水田の区画整理が行われ、その結果、道路が直線状に整備されたと考えられます。このことを踏まえて、「1961年には曲線状の道路が多く見られた」ことと「1996年には直線状の道路が多く見られるようになった」ことの両方に触れて、簡潔にまとめていけば正答となると思われます。
- ・⑤〔問3〕Ⅱのグラフから「米の総需要量と米の生産量の関係の変化」を読み取ると、食糧法の施行以前の「1960年から1995年までの期間」においては、「米の総需要量を米の生産量が大きく上回ったり、大きく下回ったり、米の総需要量と米の生産量の開きの大きい年が多く見られた」が、食糧法の施行以後の「1995年から2016年までの期間」においては、「米の総需要量と米の生産量の開きがあまり見られない」ようになったことがわかります。Ⅰの文章に「国内外における状況の変化に応じて農業政策を見直す必要性など」と示されていることから、「食糧法の施行」の背景には、食生活の変化などにより米の総需要量が減少していることに合わせて米の生産量を抑えるように農業政策の見直しが行われたことがあったと考えられます。このことを踏まえて、「1960年から1995年までの期間には米の総需要量と生産量の間に大きな開きが見られた」ことと「1995年から2016年までの期間には米の総需要量と生産量の開きが小さくなった」ことの両方に触れて、簡潔にまとめていけば正答となると思われます。

理科 ー記述問題並びに作図問題の配点についてー

●配点…各2点

●採点方法

- ・⑥〔問2〕つなぎ方 電気用図記号を用いて、2つの抵抗器が点aと点bの間に並列につながれているようにかかれば、正答になると思われます。
- ・⑥〔問2〕理由 <実験2>の<結果2>より、図3の装置で電源装置の電圧を大きくすると、金属棒に流れる電流が大きくなり、金属棒の動く速さが速くなることがわかります。このことから、電源装置の電圧を変えずに、抵抗器をもう1つ回路につないで金属棒の動く速さを速くするには、抵抗器を回路全体の抵抗が小さくなるようにつないで、金属棒に流れる電流が大きくなるようにすればよいということが推測できます。以上の点をふまえ、「回路全体の抵抗」「金属棒に流れる電流」という語句が使われており、「回路全体の抵抗が小さくなる」ということと「金属棒に流れる電流が大きくなる」ということの両方が書かれていけば、正答であると思われます。